

2017.11.6

今回お伺いしたのは、崎谷浩一郎さん(平成13年・景観デザイン研究室修了)。崎谷さんは平成15年に、土木のデザインを専門とする設計事務所EAUを設立し、数多くの公共事業に携わってこられました。そして平成29年10月、EAU事務所を本郷2丁目・古市公威先生の旧邸宅に隣接する本郷瀬川ビルに移し、11月には発酵するカフェ「麴中-Koujichu-」(以下、麴中)を併設してオープンしました。

今回は麴中にて、事務所の移転やカフェ開設に至った経緯や、今後の展望などを伺いました。



崎谷浩一郎さん

新しい事務所と麴中

本郷瀬川ビルとの出会い

新しい事務所を探し始めたのは、EAUを設立して約15年が経ち、働く環境を整える大切さを意識するようになった頃です。当初からカフェを開くつもりだったわけではありません。ただ、本郷に対する恩返しをしたいとは考えていました。全国各地のまちづくりを生業としながら、学生時代からお世話になっていたこの土地に対しては、何も還元できていないと気づいたのです。

平成29年の3月中旬、瀬川ビルの一階が空いているのを知ってからはトントン拍子に事が進みました。瀬川ビルの上階に研究室の後輩が働く事務所があり、その後輩に連絡したその日にビルのオーナーである瀬川さんとの面会まで至りました。その場でビルと同じ敷地に建つ文化財瀬川邸を案内して頂いたんですが、なんとそこは古市公威先生がかつて住んでおられた建物。偶然の繋がりに運命的なものを感じましたね。

このビルの1階に入居する条件は、テナントや地元の人が利用できる飲食店を設けるということでした。そこで、事務所とカフェを併設させるアイデアが生まれたんです。



カフェ「麴中-Koujichu-」の正面



瀬川ビル敷地内に建つ瀬川邸

発酵するカフェ

実は、オフィスと飲食店の併設というアイデアは、最近他のいくつかの場所でも導入されている試みです。通常は社員しか入れないオフィスと飲食店との境界を取り除くことで、誰もが気軽に立ち入り、今まで知らなかった人や経験と出会う場所となることを目指しています。仕事で公共空間を設計する時にも意識することですが、偶然の出会いがあつてこそ、その土地の文化が生まれると信じています。

特に、本郷という歴史が染みついたユニークなまちにおいて、麴中が現代都市の入会地のような場所となることを思い描いています。入会地とは、かつての里山や里海で、人々が協力して手入れをし、恵みを受用した場所です。そのようなコンセプトに基づき、麴中では、夜はカフェやキッチンを地元の人たちが利用できるようにする、というようなサービスも考えています。

また、本郷について調べるうちに、江戸時代にはこの地域に多くの麴室があったことを知りました。“Hongo”はスペイン語で「菌、きのこ」を意味もあつたりして(笑)。そこで麴中では、体によい発酵食品を使った飲食を提供することにしました。同時に、麴中での出会いや体験が「発酵」していき、人々の心や地域全体が良くなるように、という想いも込めています。

カフェに隣接する事務所で働く私達にとっても、麴中は「発酵」の場です。以前の事務所と比べてより見られることを意識し、主体的に動くようになりました。その想いが、今後まち全体にも広がっていくことが狙いなんです。



自然栽培の野菜と米を使ったランチ

2017.11.6

土木をデザインすること

愛でつなぎ、余白を生かす仕事

土木でデザインを学ぶきっかけとなったのは、大学三年の時の、篠原修先生との「シビれる」出会いです。当時は北海道大学の土木学科にいましたが、篠原先生との出会いで景観デザイン研究室のことを知り、衝撃を受けました。

その後、景観デザイン研究室での勉強を経て、27歳の時に設計事務所EAUを設立しました。落第横丁にある建物の二階で、家賃五万円の四畳半二間の部屋からスタートしました。電気が10アンペアしか使えず、よく落ちたのを覚えています（笑）。当初から、一人一人が社会、自分の生きる環境に向き合えるような事務所を目標にしていました。

私は設計をする上で、「シビれるエンジニア」でありたいと思っています。持続的な社会を目指すために土木技術者は、市民（civil）と技術（engineering）を大きなL、すなわち愛（Love）でつなぐ「シビれるエンジニア」（civil L engineering）になればいけないと思うんです。

もちろん、愛を叫ぶだけでは何も変えられません。もう一つ大事なものは「余白」を生かす意識です。「余白」とは誰のものでもなく、意識しないと気づかないもののことを指します。土木は「余白」で溢れています。例えば道ひとつとっても、「今歩いている」と考えながら歩いているわけではないですよ。 「余白」を見つけたり生み出したりして活用していく、そんな心持ちで設計しています。

具体的に、三重県伊勢市の宮川の河川堤防（右上写真）のお話しをしましょう。江戸時代に作られたこの堤防は桜堤が有名です。しかし、河川管理施設等構造令に則って堤防断面を増やすには、桜を切る必要がありました。地元の方が桜を守るために堤防改修に反対したことは想像に難くありません。ではどうしたか。私たちはこの問題を解決するために、法の解釈のもとで桜堤を持続させるストーリーをつくりました。腹付盛り土を行って新たな堤防断面を確保するとともに、元の堤防部分は環境側帯と位置づけ、根が入らないような設計を行った上で、桜を植えられるようにしたんです。堤防という「余白」を生かし、地元の方の桜への愛着に寄り添った形で、設計を実現することができたと思います。



伊勢市の宮川堤



崎谷さんお忙しい中有難うございました！

これからの土木、これからのEAU

土木はスケールが大きく、目の前のちょっとした違いが長期的には大きな違いを生むことがたくさんあります。だからこそ、目の前の小さなことに意識的でありながら、打算的な解決策に甘んじず素直に考え続けることが、土木に求められている姿勢であり、強みなんじゃないでしょうか。

また、今までは、公共の仕事では言われたことを正確にこなすことが大事だと考えられてきた側面がありました。しかし今後は、問題を見つけ、解決方法を形にしていく、というサイクルに主体的に関わっていくことが大事になると考えています。

私がこのように土木や土木デザインの未来を考えるのは、まだ誰も描けていない2020年東京オリンピックの先を見据え、EAUがいかに地につけてやっていけるかを思うからです。新しい事務所や麴中も、その考えの一環で必要な変化だといえます。オリンピックの時にEAUがどうなっているのか、私自身楽しみにしながら、今後も活動していきます。（文責 修士1年武藤）

麴・P

Koujichu



発酵するカフェ 麴中-Koujichu-

〒113-0033 東京都文京区本郷2-35-10本郷瀬川ビル1F

(丸ノ内線本郷三丁目駅から徒歩5分)

営業時間：8:50~17:00

定休日：土・日・祝日

Facebook : <https://www.facebook.com/koujichuhongo/>